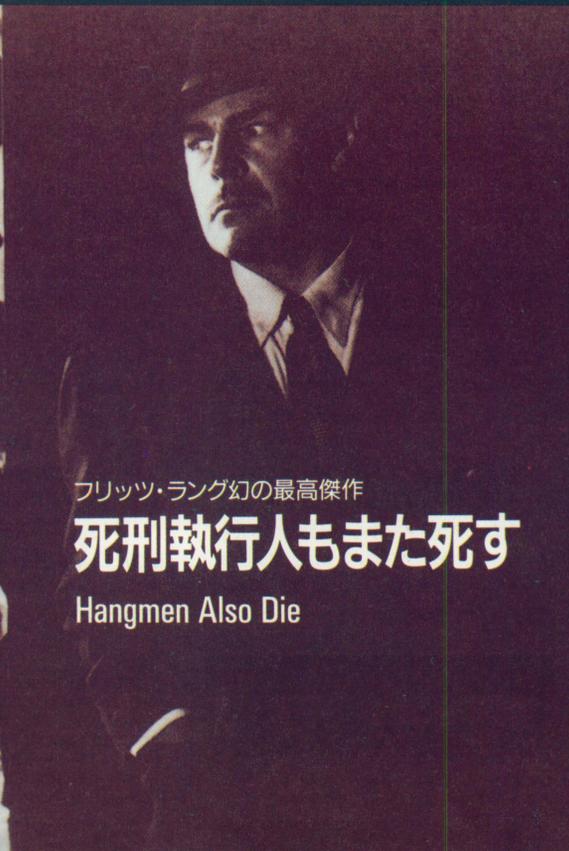




# ヨーロッパの名匠たち

## フリッツ・ラングとジャン・ルノワール

「幻の傑作」連続公開



フリッツ・ラング幻の最高傑作

### 死刑執行人もまた死す

Hangmen Also Die

ルノワール最後の劇場長編

**捕えられた伍長** Le Caporal Epinglé

スピード感溢れる傑出サスペンス

**恐怖省** Ministry of Fear



●共通特別鑑賞券1,200円

## 三百人劇場

配給 ● ケイブルホーク

都営地下鉄(三田線)千石駅前  
TEL. 03-944-5451

# ヨーロッパの名匠たち

## フリッツ・ラングとジャン・ルノワール

解説……………

フリッツ・ラングの「死刑執行人もまた死す」と「恐怖省」及びジャン・ルノワールの「捕えられた伍長」は、いずれも女の未公開作品です。特にラングの二作は第二次大戦中の作品であるため、製作時に日本で公開される可能性のないまま現在まで眼にすることのできなかった貴重な作品です。

ラングは1984年にジョルジオ・モローダーが復活させた「メトロポリス」や、「ドクトル・マブゼ」など、ドイツ表現主義映画の時代から先端を行く映画を発表してきました。壮大なセットの中でくり広げられる宿命的でスケールの大きなドラマは、現代風にアレンジされながら「インディーズ・ジョーンズ魔宮の伝説」のような映画にまで影をなげかけています。一方、ルノワールは「大いなる幻影」をはじめとして、生の歎びと社会的な深い思想を見事に結びつけて、自由なフランスを象徴するような傑作を作りつづけてきた名匠です。

このようなラングとルノワールは、長らく同じ名匠でも全く異なるイメージで扱われてきました。フランスを中心に活躍してきたルノワールと、ドイツやアメリカで、メカニクなまでのスピード感あふれる犯罪映画や暗黒映画を作りつづけてきたラングには何の絆

もないかに見えます。しかし、この二人は実はまるで双生児のようにいくつもの符合に彩られているのです。

世紀末に生まれ、ほぼ同世代に当るラングとルノワールは映画とともに成長し、ナチスを避けるため前後してアメリカに渡っています。またラングの『スカーレット・ストリート』とルノワールの『牡犬』、ラングの『人間の欲望』とルノワールの『獣人』というように、同じ原作を二度も！両者が映画化している上に、ともにヌーヴェル・ヴァーグの批評家たちから神様のように崇められて評価を不動のものとなりました。

ラングもルノワールもサイレント時代から1960年ごろまでの長きにわたり映画を作ってきた上に、亡命などの時期もあり、何人分かの作家のキャリアを一人で実現しているほどに作品も多様です。そのためこの両巨匠は一面だけをとりあげてレッテルをはられることが多く、我が国ではそれが誤解のもとにもなってきました。その意味で、今回の上映は、いまだに未公開作品の多いラングとルノワールのフィルモグラフィーの空白をうめるだけではなく、見られなかったために起きた誤解を修正し、両巨匠のスタイルをこの眼でたしかめることのできる貴重な機会であることを確信しております。

(解説)

第二次大戦ドイツ軍占領下のチェコのプラハで、ナチスの地区司令官が何ものかに暗殺された。ゲシュタポは対抗措置として、市民への無差別逮捕をはじめると同時に、ある男をレジスタンス組織の中に潜入させる……。複雑なストーリー（脚本・プレヒト）を明解に解き明かしていくその見事な語り口と、研ぎすまされた映像感覚が一体となったラング「幻の最高傑作」。

「大いなる幻影」について再び戦争捕虜の世界をドラマチックに描くルノワール最後の劇場長編

捕えられた伍長 1961～62年/フランス映画  
モノクロ/105分

(解説)

ドイツ軍捕虜収容所に収容されているフランス軍のなかに、脱走をくりかえす5人の兵士たちがいた。仲間が次々と脱走していく中で、ひとり「伍長」だけが自由を求めて6回目の脱走を試みるのだが……。傑作「大いなる幻影」を彷彿させるルノワールの名芸。



監督：ジャン・ルノワール 出演：ジャン・ピエール・カッセル

ヒッチコックの先輩ラングのスピード感溢れる傑出サスペンス

恐怖省 1944年/パラマウント映画  
モノクロ/84分

(解説)

第二次大戦下のロンドンを舞台に、孤独なひとりの男がナチスのスパイ組織の陰謀にまきこまれていくグリーン・サスペンスフルな原作を異常なまでの緊張感で描いた傑出サスペンス。主人公が敵の襲撃から逃れる陰雷術のシーンなどラングの面目躍如というシーンが続く。



監督：フリッツ・ラング 出演：レイミランド、ロ・デュレー

フリッツ・ラング幻の最高傑作

## 死刑執行人もまた死す

監督：フリッツ・ラング 脚本：ベルトルト・プレヒト他  
出演：ブライアン・ドンレヴィ、ジーン・ロックハート



1943年/ユナイテッド映画/モノクロ/120分

## 「死刑執行人もまた死す」批評

いまや断言すべきだと思うが、ドイツ時代に一本の映画を撮っていなかったとしても、フリッツ・ラングは世界が持ちえた最も貴重なシネアストの一人として、いまなおわれわれの映画の感性を不漸に感懐し続けている。そして「死刑執行人もまた死す」の美しさは、程よく現代と戯れているつもりでベルイマンとか、バズリーニとか、アラン・レネといった有象無象の饒舌をたちどころに崩壊させてしまうほど現代的なのだ。ラングの前に、ベルイマンは死ぬ。バズリーニも二度死ぬ。アラン・レネは死にきれずに黙ってしまう。

(蓮實重彦「映像の詩学」より)

●特別鑑賞券1,200円 発売中  
(当日料金/一般1,500円、学生1,300円の処)

●前売券は劇場窓口、チケットぴあ(237-9999)、チケットセゾン(980-9999)にてお求め下さい。

## 「死刑執行人もまた死す」アンコールロードショー

2月15日(月)～2月21日(日)

●上映時間

平日	12:15	2:30	4:45	7:00
土・日	11:15	1:30	3:45	6:00

都営地下鉄  
(三田線)  
千石駅前

三百人劇場 (944)  
5451